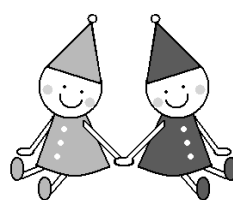




支援センターだより



2010.6.発行 vol.68

～6月のあそび～



雨の中の散歩



雨の日が続いて退屈したら、レインコートと長ぐつで身をかためて散歩に出かける手もありますね。水たまり、ピチャピチャ水をはじいて歩いたら子どもは大喜び。草の葉や里芋の葉の上の水玉が見つかるかな。雨が好きな♪でんでん むしむし かたつむり♪や小さな雨蛙さんに出会えるかも。紫陽花（あじさい）も青や紫、ピンクと色鮮やかに咲いている季節です。

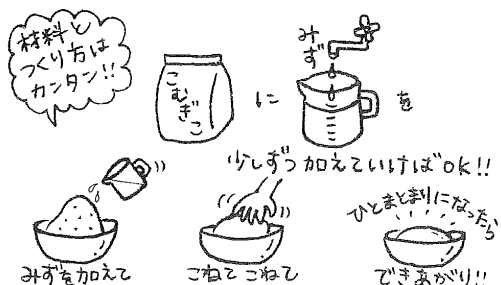


小麦粉ねんど

家の中では一緒に作って楽しめます。

※右の材料の他に

- 塩…腐りにくくします。でも、保存にはお気を付けてください。（入れ過ぎると固くなります。）
- 油…少し加えると手にくっつきにくくなります。
- 食紅…色つきねんどができます。食紅なら、万一お口に入れてしまっても安心です。



雨に洗われて緑が鮮やかさを増します。

陽が射せばそれ一っと洗濯日和、忙しい毎日ですが、目に飛び込んでくる自然の移ろいに、ふうーと深呼吸してみませんか。体中の血流が良くなり、気分もスカッとしてくるように思えますよ。

先日、センターに幼稚園くらいの大きな子たちが来ていて、いつもとは違うお喋りが小鳥のさえずり声のように聞こえてくるなーと事務仕事をしてましたら、何があったのか見えていないので事情は分からないのですが、かなり大きな声で男の子が「しらん、ぺったん、ごりら」と何回か繰り返したのです。何か意に沿わないことがあって親に言い返している雰囲気は伝わってきました。親やその周辺の大人たちは、言い返されたタイミングがピッタリだったようで、どっと沸いて「まあ、まあ、がまんして」とか「悪かった、悪かった」というようなやりとりになったようです。

ことばをどんどん覚えて、特に覚えてたのへんなことばや、面白いことばを使いたがる年齢というものがありますが、大人たちがまじになって「そんなことば使っちゃいけません」でなく、「言われちゃった」と受け流したり、あるいは子どもの真剣さを受けとめて「ごめんなさい」というのは大切なことではないかと考えます。互いのやりとりの中で表現力は磨かれるし、ことばが人を和ませもすれば傷つけることもあるのを、子どもたちは呼吸するように周辺の大人たちの言動から身につけていく気がします。

話しことばから読むことば、書きことばと、ことばを発展させて自分の中に思考力をつけていくのが成長ですが、単に学習として覚えることばでなく、日々の生活の中から体験を通したことばを身につけてほしいなと思います。コミュニケーション力が必要と言われていますが、まず自分の気持ちが整理でき表現できるようになっていったら快適だろうと考えさせられます。乳幼児さんたちにはずっと将来のお話のようですが、ご家庭でのことばがいつの間にかしっかりと身につけていくものようです。

さて、梅雨の季節、(雨)降っても(陽)照っても、楽しいことを見つけられるよ。

「みつけてみようよ」って言えたら、親子でニコリですね。

降っても、晴れ間も、時間がとれましたら広場に遊びに来てください。



両方 仁子